



秋酒仙語

生

五 昨紙の豫告通り、住江農... 大酒呑み酒の味を知らず... 二升の豪酒の人々に酒の... 定を頼んでもカラ歌目の... が多い。飢る者は食を... 大した酒でも、へ無... 大に議論がある。○△生... 大に議論がある。○△生... 大に議論がある。○△生...

行發日五十月九... (刊休日翌日祭曜日) 寄五六五八〇一署報京東

天氣豫報... 今晩は北東の風... 明日は北東の風時... 雨

孤獨

小夜川 漣

よるさとの... 森の中... 寄る邊無き身を... 只一人... 誰に告げよう... すまぬ... 胸をいたいて... 泣きにけり... 泣いたとて... 泣いたとて... つきの思ひの切なさを... 諦め得よう... すまぬ... 涙をふいて... 歩きけり

妖刀流轉

邑井 貞吉

妖刀流轉... 旅人がおここの書面を奪... 行、其向ふから、ヨロ... 松の叫ぶ聲を遙かに聞... たものと見へまして、... つたは、急ぎ足に参り... したの、これぞ府中の... の永住興力、かの大太郎... 師匠、頼む澤田覺右衛門... 御用の筋があつて兩名の... 先を連れ、夜道ながら... る途中、泥棒々々と呼... キヨロ松の、懇かならぬ... を聞つけて、捨て置き難... 取つたのであります... 来るから... 角、怪しむ曲者、召捕... れ... と角右衛門の下知、有無... を云はせ、手先兩名が... か、手、コレ何處へ参る... と云ふが早い、忽ち繩... をかけて了つた、平素澤田... 覺右衛門に就て捕縛早... 稽古をしてゐるが、實に...



引出した例の書状... 手、奪られた手紙といふの... はこれか... 手、外に何もとられた物は... 松、自慢やア御座んせん... 松、アッ畜生、ごまア見... が外に取られるものなんざ... アア待つて居ません、天下... 手紙を返せ... と飛か、らうとするのを... 手、馬鹿つ、文なしを自慢... にする奴があるか... じつと見て居りました角... 手、コレ、旅人の男、その... 方、此者の手紙を何で奪つ... た、それ懐中を檢た、... 役人に達つては叶はない... 旅人の懐中へ手をつ、込み

文學断片

真田 誠

凶作、早書、箱書、凶漁... 水書、ろくでもない事ば... かりつき、さらたに給... も妙いものを完膚なきまで... に叩きのめすのである... いかにも血を以つて耕し、... 蒔き、培つても、自然の不... 逞でも暴戾な手には、人... 間抗すべくもないのである

若帖集より

恩田 榮一

吹きつる南疾風に波さざり消さる短艇... 船手の聲いや太々ときこわつ、波返し来る短艇... 艇ゆゑし... ○二千米練習コースの川波を乗切る短艇しよき... あく見る見ゆ... ○南吹き白波たてる全コース見みる縮む短艇... はやし。

新刊紹介

法律新聞九月十日號

法律新聞九月十日號... 裁判特報、雜報、海... 外ニュース、大審院民事...

この人たちは自然を奪れ... 居ても、敢て讚美して... 出された映畫もすくない... であらう... あつた。たゞ、単に... 何れ無かつた。たゞ、単に... 孤島の、一握の土さへも... 恵まれない漁民たちの生活... が、執拗にあくなく追ひ廻... しの、遠くに行きよ外は... ないのであらう

和洋建築器具... 片寄製作店... 電話四八四番... 十五、六歳以上の見習徒募集

鐵道省指定記念... 小瀧へ!!!... 湯の湯... 電話一〇三番

不三錠... 恐るべき中風、腦溢血を治せしむる... 山野邊藥局... 電話六六八

皮膚科... 泌尿器科... 性病科... 門專... 江尻醫院... 電話六九一

根本醫院... 手術室完備... 電話三四番

友部株式會社... 一般貨物運搬... 電話一七七番

桑原柔道整骨院... 電話六七四

平病醫院... 電話六四二番

燃ゆる銃後心喚起に 講演と映畫時代現出

平市中心に催しの數々

疾風烈雨を捲く皇軍の勢威は逐日加速的に暴支をして幾滅的の
小氣味なき敗退潰走を續けしめて居るが、國を擧げての銃後運動
も備々々々燃ゆる加へ今や國民一般當然の義務として常勤づら
れるに至つたが、この所謂銃後運動に於いては、一新傾向を帯
び來つたのは従來行はれ來つた國民運動の結晶たる金の寄附に
外、講演等による銃後心の喚起運動と手近な例と見ては、昨
十三日衆議院に於ける大日本國民義勇團森直次氏の獅子吼を以
り、今日十五日は午後六時より同所に於て東京朝日新聞特派記者永
田正義氏の「北支戰線と我が空軍の活躍」と題する講演あり、更に明日十六日
午後六時より之亦同所に於て東京朝日新聞特派記者向田編撰顧問伊藤金
次郎氏の「北支の戦線より歸りて」なる現地戦況報告講演あり、此等は漸く
講演乃至映畫による銃後心の拍車時代に入つた觀あり、此等の各備しが如何
に愛國心に燃ゆる同胞間に旋風的の反響を齎すかは蓋し想像するに難か
らぬものがある

銃後の龜鑑也

百圓を投げ出した
スエ嬢に近く感謝狀
昨日一さやかな野菜の種
子を買つて着へた金百圓を
寄附した市内五丁目林スエ
嬢は去る満洲事變にも
粒々辛苦の結晶を投げ出し
た奇蹟なばあさんである
寄附した金百圓は着るも
のを着ないで蓄へた十圓
紙幣七枚に十錢銅貨實に
三十圓分だ
軍事後援會でも「實に銃後
の龜鑑である」と賞讃、近
く感謝狀を贈る筈である

中谷爲吉部長判事 平區監督に歸り咲く

中島千蔵氏の後任決定

最近勇退した中島千蔵氏の
後任平區監督判事兼福島地
方部長は盛岡地方裁判所
部長判事の中谷爲吉氏と決定
近く着任の筈であるが、氏
は是に平區判事として在
任した事あり地方の事情に
家庭に在る夫人(貞)との間に
金三圓を十四日兵隊さん
の慰問費として市役所へ寄
附した

兵隊さんへ 久平君の赤誠

平第一校六年一組志賀久平
君は次のやうな手紙に添へ
て金三圓を十四日兵隊さん
の慰問費として市役所へ寄
附した

滿洲事變記念講演

来る十八日を中心として
各所で愛國の烽火
野校△十八日大浦校△同
野校△十八日大浦校△同
野校△十八日大浦校△同
野校△十八日大浦校△同

特殊の、外 募集罷りならぬ

時局柄平署で新方針
募金の募集の美名に
かくれ、ひそかに
私腹を肥す非國民
の排除の外、當分の開其
の募集許可を爲す
警察官小異動
事變に伴う警察官の補充
市古殿治町橋内菊藏夫妻
村大字市佐川義術と聯合
家出した、行方知れず
昨今茨城縣助川邊の旅館に
は助川君へ捜索願ひを差出
した

軍國氣分を反映して 八幡様例年以上賑ふ

天候も先づ以て上々

當今の軍國氣分を反映してを伴奏に平常は強風の松嶺以上の出入に終日を賑ひ通
一入の盛大な理想された弓に神威ふる附近一帯も今宵この祭り特有とも云ふべ
矢の神飯野八幡の青祭りはばかりは秋の夜空に瓦斯電流流瀾の古儀をほしめ
夕刻一寸降つた小雨に幾分氣の光まばゆく、如何にも月見景其他による龍虎相
近在からの出入を阻まれ豊秋を祝福する宵祭りらしき奉納舞劇等何れも無事盛
々傾向があつたとは云ふもいづれは今日の本祭り、天に
の幸に降りの時刻が早くは今日の本祭り、天に
の幸に降りの時刻が早くは今日の本祭り、天に
の幸に降りの時刻が早くは今日の本祭り、天に

若妻何處? 夫から捜索願

三丁目エビヤ洋品店から
三丁目エビヤ洋品店から
三丁目エビヤ洋品店から
三丁目エビヤ洋品店から

屋根傳ひに逃る 捕物

十四日夜八時半頃スリ小僧、平病附附近の家
市内南角遊戯場屋根傳ひに逃る捕物
市内南角遊戯場屋根傳ひに逃る捕物
市内南角遊戯場屋根傳ひに逃る捕物

十二疊大の國旗

日本精神の象徴たる國旗が毎年にはた
いて、非常時風景が日に濃度を増す
時、二丁目は平庶民金庫前にきよから
「武運長久」の文字を書き込んだ大日章
旗が翻るもの、塔の塔の高き實に十間
餘國旗の大きさは横三間、縦二間、碧空
に風爽とはたたくその光景はさぞろに出
征軍人の前途を祝福するかに見えてゐる
二丁目地内の壯觀

文魁文堂

復寫鮮明 筆觸快速
ゼネラル
カーボン紙
電話 313 番

松村醫院

院長 松村 鐵郎
平市南町一〇七

森合齒科醫院

森合 芳男
植田町電話七一

日東商會

電話 四二八番

吹き込んで即座に聴ける 私の肉聲 完成!!

吹込料 10分レコード 金三圓也
レコード盤は現研特許金品
送別會、快別會、送別會の辭
軍歌、詩吟、家族座談
(本機特價提供)
平市二丁目

眼鏡

最新式レンズ
各回製
豊富に取進へて御座います
(丸服用眼鏡即時調整)

平製米

魚は 鰯魚
白エビ
ワカサギ
魚帆立貝
ウニ貝焼

淋病療法の新知識

杉田平十郎(江蘇醫學博士)著
淋病に罹つても心配無用
家庭の暗さをも掃き去る新療法!
ハガキで御申越の方の右の小冊子を送呈致します
から先づH.S.線の特許治療法を知られH.S.線を
正しく認識して頂きたいと存じます。
淋病及慢性病一般
藥生堂 H.S.線治療院
平市古殿治町(天理教會前)

森合齒科醫院

森合 芳男
植田町電話七一

平製米

魚は 鰯魚
白エビ
ワカサギ
魚帆立貝
ウニ貝焼

眼鏡

最新式レンズ
各回製
豊富に取進へて御座います
(丸服用眼鏡即時調整)